

製品名: ニューログリカン C ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab14610

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300 |
| 分子量 | 60kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | CSPG5 |
| 別名 | CSPG5; CALEB; NGC; Chondroitin sulfate proteoglycan 5; Acidic leucine-rich EGF-like domain-containing brain protein; Neuroglycan C |
| 遺伝子 ID | 10675.0 |
| SwissProt ID | O95196 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト CSPG5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 211-260 |

背景

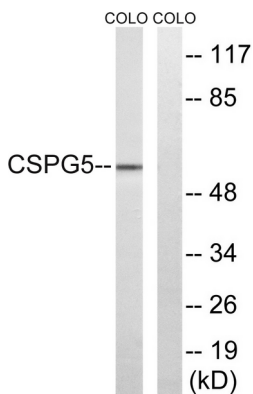
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、神経成長・分化因子として機能する可能性のあるプロテオグリカンです。この遺伝

子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2011 年 5 月]、発達段階: 3 ヶ月齢、5 歳、10 歳児の脳で発現しています。、機能: 神経突起形成に関与する成長・分化因子として機能する可能性があります。ERBB3 の活性化を引き起こす可能性があります。、その他: 様々な分子量の異なる形態が観察されています。これらの形態は、糖化、リン酸化、および/またはタンパク質切断の程度の違いに起因する可能性があります。、PTM: N-グリコシル化されています。、PTM: O-グリコシル化されており、コンドロイチン硫酸グリカンを含みます。パートタイムプロテオグリカン。一部はコンドロイチン硫酸グリカンを有するプロテオグリカンとして、一部は非プロテオグリカンとして発現する。両形態の相対量は組織および組織の成熟度に依存する。、PTM: リン酸化され、細胞内および細胞外で存在する。、類似性: 1 つの EGF 様ドメインを含む。、細胞内局在: ニューロンではシナプス接合部に局在する (類似性による)。小胞体およびゴルジ体にも検出される (類似性による)。脂質ラフトに部分的に濃縮されている。、サブユニット: TNR およびおそらく TNC に結合する (類似性による)。ERBB3 および GOPC と相互作用する。、組織特異性: 脳に限定される (タンパク質レベル)。

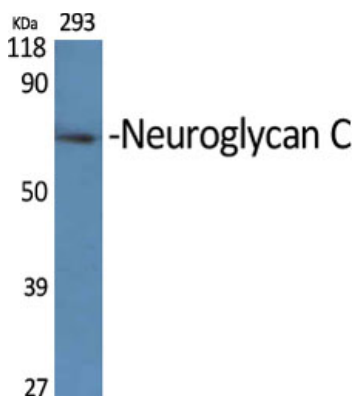
研究分野

神経科学; 細胞型マーカー; ニューロンマーカー; 細胞体マーカー; シナプスマーカー; 神経学的プロセス; 神経発生; 幹細胞; 神経幹細胞; 細胞内; 神経再生; 神経再生

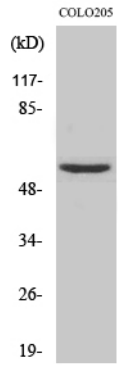
画像データ



CSPG5 抗体を用いた COLO 細胞および HeLa 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ニューログリカン C ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



ニューログリカン C ポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析